



大阪教育大学 連合教職大学院

現職教員のみなさん
働きながら学びませんか？

働きながら学べる

～都市型の夜間を軸とした学修システム～

自らの経験を確かな自信に

～豊かな経験を礎に理論や事例を学び
現場での実践に活用できる～

多彩なコースプログラム

～ICT教育推進（GIGAスクール対応）や
いじめ等対応、グローバル教育など、
各種コースプログラムから学びを選択～

未来の教員を、
教員の未来を。

連合教職大学院は、都市型大学院です。アクセスしやすい天王寺キャンパスにおいて、現職教員の方が働きながら修学できるように、平日の夜間や土曜日等に授業を行う、以下のふたつのコースを開設しています。

組織を牽引するリーダーシップを育てる スクールリーダーシップコース

コースの特徴

教員集団をリードし、保護者や地域等と協働して新しい組織的課題の解決を目指す、優れたリーダーシップを発揮する教員を養成します。

- 現職教員経験3年以上の方を出願条件とし、教職経験をふまえて新しい理論・知識を学ぶ
- 学校経営を担うマネジメントのリーダーとなる理論・知識を学ぶ
- 同僚や専門家と協働して組織的課題を解決するミドルリーダーとしての実践力を培う
- 教育現場の課題を的確にとらえ組織的に対応するための具体的な方法を学ぶ
- 激しく変化する社会情勢の中で多面的に課題を把握するための世界的な教育動向を学ぶ

コースプログラム

管理職プログラム	学校組織の成長をデザインし、その戦略を構想・実行するための力量形成を目指します。
実践的リーダープログラム	学校における連携・協働の考え方を学修し、それを組織的に進展するための力量形成を目指します。
教育委員会指導主事 プログラム	指導主事等として、学校に対するコンサルテーション（助言指導等）を学修し、実践を創発するための力量形成を目指します。
グローバルスクール プログラム	社会動向やグローバル教育の考え方を学修し、プログラムを開発するための力量形成を目指します。
メディア・情報リテラシー教育 プログラム	GIGAスクール構想をはじめ、教育の情報化及びその指導に関して学修し、推進プランを策定・実行するための力量形成を目指します。

先輩院生の声

教職大学院と大阪市教育委員会の連携による「エビデンスベースの学校改革」研修に参加したことから、勤務校において同僚と共に実践していくため深く学びたいと思い、スクールリーダーシップコースに入学しました。教職大学院での学びは、エビデンスに基づいた実践を学校全体で推進していくミドルリーダーとしての私の大きな支えとなっています。

専門的で理論的な学びと実践の往還や、同じ現職教員である他の院生との相互交流は、勤務校の課題解決を目指す意識を高めます。現職教員のみなさん、学び続ける教員に！お待ちしています！



大阪市立小学校勤務
藤岡愛子さん

また、両コースには、教育現場のニーズや組織的課題・教育課題に対応し、教員の資質・能力をさらに向上するためのコースプログラムがあります。各プログラムは、総論的・事例的・実践的な3科目で構成されています。

子どもの援助ニーズに応じた協働的な実践力を育てる 援助ニーズ教育実践コース

コースの特徴

子どもの多様な援助ニーズを汲み取り、関係者と協働的に実践しながら、学校園の教育課題の解決を目指す教員を養成します。

- 豊かな経験に基づく生徒指導・教育相談上の実践知を裏付ける理論・知識を学ぶ
- 経験だけでは対応が困難となりつつある個別の子ども理解と具体的な支援方法を学ぶ
- 子どもの多様な援助ニーズについて個別と集団の子どもの両方に働きかける実践を学ぶ
- 学校園の教職員、保護者、地域の関係諸機関及び専門家との協働的な実践力を培う
- 全校園種の教諭・養護教諭に対応するカリキュラムの中で「チーム」で学修する

コースプログラム

いじめ・不登校・問題行動 対応プログラム	いじめ・不登校・問題行動という現象を通じて、子ども集団と個別の子どもの関係をアセスメントし、実際的な状況に応じた協働的援助を実践するための力量形成を目指します。
子どもの障がい・健康課題 対応プログラム	子どもの障がいや健康課題という子どもの内面に応じた適切な子ども理解と個別支援・子ども集団との関係を形成する、協働的援助を実践するための力量形成を目指します。
養護プログラム	全校園種におけるあらゆる子どもの援助ニーズに着目し、すべてのプログラム内容と関連付けながら、養護教諭の専門性と固有の実践に特化した力量形成を目指します。
就学前教育プログラム	就学前段階にある子どもの援助ニーズに着目し、すべてのプログラム内容と関連付けながら、幼稚園・こども園における教諭の専門性と固有の実践に特化した力量形成を目指します。

先輩院生の声

私は教員の長年の勘や経験に裏打ちされた指導法を信じています。現場では先輩の先生方からそれらを学び、その素晴らしさを日々体感しています。ただ、ベテランの先生の大量退職と、激変する学校現場の最前線にあって、次の時代に即応でき、今日の前にいる一人一人の生徒のニーズに応えるための指導法を求めて、教職大学院の門を叩きました。

一つ間違なく言えることは、ここには「現場が求める最先端」があります。教職大学院の学びはとても刺激的で、チャレンジングな日々を送ることができます。



大阪府立高校勤務
佐藤弘康さん

柏原キャンパス（昼間開講）での修学

連合教職大学院では、上記の2コース以外にも、柏原キャンパスにおいて、教科横断的な視野を持った高度な教科指導力の育成を目指す教育実践力コース、障がいのある子ども一人ひとりに対応した支援を目指す特別支援教育コースを開設しています。

ただし、授業が昼間に実施されますので、現職教員の方には『大学院修学休業制度』等を活用していただく必要があります。

教育実践力コース 教科横断的な視野を持った高度な教科指導力を育成

教科領域の違いを超えた教科横断的・総合的な学びを目指し、今日的な教育課題に対応した授業開発に先端的かつ継続的に取り組むことのできる教員を養成します。

特別支援教育コース 障がいのある子ども一人ひとりに対応した支援を

特別支援教育の理論と実践について、教育学・心理学・臨床学等の専門分野の観点から多角的に学びます。(特別支援学校教諭免許状取得者のみ出願可能)

そもそも教職大学院ってどんなところ？

<教職大学院とは>

近年の社会の大きな変動の中、様々な専門的職種や領域において、大学院段階で養成されるより高度な専門的職業能力を備えた人材が求められています。教員養成の分野についても、子どもたちの学ぶ意欲の低下や社会意識・自立心の低下、社会性の不足、いじめや不登校などの深刻な状況など学校教育の抱える課題の複雑・多様化する中で、こうした変化や諸課題に対応しうる高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員が求められてきて

要するに…

教職大学院とは、子どもたちや学校園・教育行政等のさまざまな教育課題の解決を目指し、高い専門性を有する高度な教員養成を行う、教員のための大学院です。

<連合教職大学院（天王寺キャンパス開設コース）の特徴>

- 天王寺キャンパスでは、働きながら学ぶことができるよう、主に夜間に授業を開講しています。さらに、研究科共通必修科目等の**主要な科目を7限目（19:40～）に集約**することで、通学しやすい時間割を構成しています（見開き参照）。
- 援助ニーズ教育実践コースには、現職教員院生とともに、意欲的な学部卒院生が学修しています。また、研究科共通科目では、ふたつのコースの院生がともに学修し、お互いに刺激を受けながら学びを深めています。

連合教職大学院で何ができるの？

○専修免許状、教職修士（専門職）の学位の取得

専門職学位「教職修士（専門職）」が授与され、所有の1種免許状を専修免許状にすることができます。これらの取得により、人事上の配置や待遇、管理職への昇進などを受けられることができます。

○所属校園が抱える教育課題の解決に向けて

所属校園の教育課題等を実践課題研究のテーマに設定した現職教員院生は、同僚との協働や、大学教員が所属校園を訪問しての指導・助言を受ける等、学校園・院生・大学教員がチームとなって課題解決に向けた取り組みを行います。

○院生同士のネットワークが構築できる

他学校園、他校園種、他地域の教員、あるいは教育委員会指導主事や学部卒院生といった院生同士の多種多様なつながりが生まれます。修了後においても、お互いを支え合い、学び続ける仲間となります。

○教員免許状更新講習の猶予（延長）措置が可能

連合教職大学院を修了し、上記の通り専修免許状を取得することにより、教員免許状更新講習の猶予（延長）措置が可能です。詳細については、免許管理者となる都道府県教育委員会等で確認してください。

○学校心理士の申請資格が取得可能

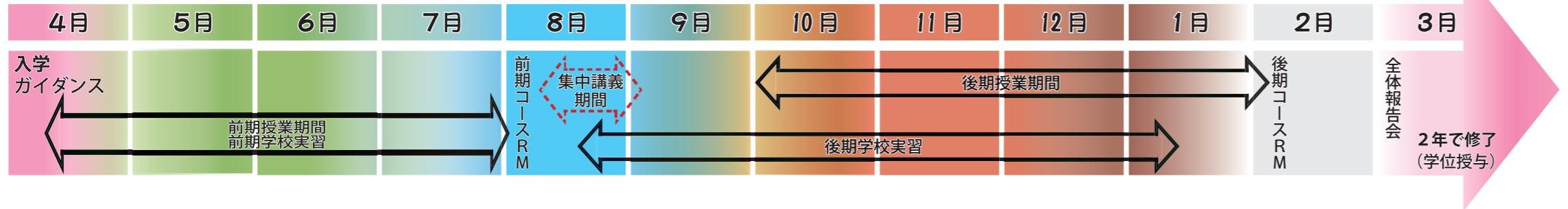
2020年度より、学校心理士の資格申請における申請類型に、教職大学院類型が追加されました。本学連合教職大学院でも、修了要件を満たされた方は、学校心理士の申請資格の取得が可能となります。

○コースプログラムを用意

天王寺キャンパスの両コースでは、あわせて9つのプログラム（コース紹介参照）を用意しており、各自のキャリアやニーズに合わせて選択できます。また、コースプログラムを修了することで本学としての修了証明を行います。

連合教職大学院での2年間の学び

年間スケジュール



時間割例

※赤枠の授業科目①～④については、担当教員に授業の紹介をしていただきました（ページ右側をご覧ください）。

例1) スクールリーダーシップコースに入学し、「実践的リーダープログラム」を選択した院生の場合

1回生 前期	曜日	6限 18:00 ~ 19:30	7限 19:40 ~ 21:10																															
	月曜日	② 教育課程編成の今日的課題																																
	火曜日	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	スクールリーダーシップの理論と実践																															
	水曜日	学習開発研究演習（英語）	生徒指導と教育相談の実践的課題																															
	木曜日		学校経営と学級経営の理論と実践																															
	金曜日	集中講義 海外の学校改革に学ぶ																																
	集中講義	海外の学校改革に学ぶ																																
2回生 前期	曜日	6限 18:00 ~ 19:30	7限 19:40 ~ 21:10																															
	月曜日																																	
	火曜日	協働的援助の理論と実践																																
	水曜日	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開																																
	木曜日	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開	実践課題研究I（時間は指導教員と相談可能）																															
	金曜日	集中講義 エビデンスベースの学校改革																																
	集中講義	エビデンスベースの学校改革																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">科目区分</th> <th colspan="2">研究科共通科目</th> <th rowspan="2">学校実習科目</th> <th colspan="2">コース科目</th> <th rowspan="2">自由選択科目</th> <th rowspan="2">課題研究科目</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>必修</th> <th>選択必修</th> <th>必修</th> <th>選択必修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>修了要件に必要な単位数</td> <td>16 単位</td> <td>2 単位</td> <td>10 単位</td> <td>4 単位</td> <td>6 単位</td> <td>4 単位</td> <td>4 単位</td> <td>46 単位</td> </tr> <tr> <td>本例における取得単位数</td> <td>16 单位</td> <td>2 单位</td> <td>10 单位</td> <td>4 单位</td> <td>6 单位</td> <td>10 单位</td> <td>4 单位</td> <td>52 单位</td> </tr> </tbody> </table>				科目区分	研究科共通科目		学校実習科目	コース科目		自由選択科目	課題研究科目	計	必修	選択必修	必修	選択必修	修了要件に必要な単位数	16 単位	2 単位	10 単位	4 単位	6 単位	4 単位	4 単位	46 単位	本例における取得単位数	16 单位	2 单位	10 单位	4 单位	6 单位	10 单位	4 单位	52 单位
科目区分	研究科共通科目		学校実習科目		コース科目			自由選択科目	課題研究科目				計																					
	必修	選択必修		必修	選択必修																													
修了要件に必要な単位数	16 単位	2 単位	10 単位	4 単位	6 単位	4 単位	4 単位	46 単位																										
本例における取得単位数	16 单位	2 单位	10 单位	4 单位	6 单位	10 单位	4 单位	52 单位																										

※修了要件に必要な単位数は選択したコースにより、若干の違いがあります。
※各科目の単位は、発展課題実習I・II（各3単位）を除き、1科目2単位。

例2) 援助ニーズ教育実践コースに入学し、「いじめ・不登校・問題行動対応プログラム」を選択した院生の場合

1回生 前期	曜日	6限 18:00 ~ 19:30	7限 19:40 ~ 21:10																															
	月曜日	② 教育課程編成の今日的課題																																
	火曜日	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	協働的援助の理論と実践																															
	水曜日	児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ	生徒指導と教育相談の実践的課題																															
	木曜日		学校経営と学級経営の理論と実践																															
	金曜日	集中講義 健康教育の理解と実践																																
	集中講義	健康教育の理解と実践																																
2回生 前期	曜日	6限 18:00 ~ 19:30	7限 19:40 ~ 21:10																															
	月曜日	人権教育の課題と実践	社会的包摂のための諸施設に関する実践的探究																															
	火曜日																																	
	水曜日	学校危機における援助ニーズ																																
	木曜日	実践課題研究I（時間は指導教員と相談可能）																																
	金曜日																																	
	集中講義																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">科目区分</th> <th colspan="2">研究科共通科目</th> <th rowspan="2">学校実習科目</th> <th colspan="2">コース科目</th> <th rowspan="2">自由選択科目</th> <th rowspan="2">課題研究科目</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>必修</th> <th>選択必修</th> <th>必修</th> <th>選択必修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>修了要件に必要な単位数</td> <td>16 単位</td> <td>2 单位</td> <td>10 单位</td> <td>6 单位</td> <td>6 单位</td> <td>2 单位</td> <td>4 单位</td> <td>46 单位</td> </tr> <tr> <td>本例における取得単位数</td> <td>16 单位</td> <td>8 单位</td> <td>10 单位</td> <td>6 单位</td> <td>6 单位</td> <td>(6 单位)</td> <td>4 单位</td> <td>50 单位</td> </tr> </tbody> </table>				科目区分	研究科共通科目		学校実習科目	コース科目		自由選択科目	課題研究科目	計	必修	選択必修	必修	選択必修	修了要件に必要な単位数	16 単位	2 单位	10 单位	6 单位	6 单位	2 单位	4 单位	46 单位	本例における取得単位数	16 单位	8 单位	10 单位	6 单位	6 单位	(6 单位)	4 单位	50 单位
科目区分	研究科共通科目		学校実習科目		コース科目			自由選択科目	課題研究科目				計																					
	必修	選択必修		必修	選択必修																													
修了要件に必要な単位数	16 単位	2 单位	10 单位	6 单位	6 单位	2 单位	4 单位	46 单位																										
本例における取得単位数	16 单位	8 单位	10 单位	6 单位	6 单位	(6 单位)	4 单位	50 单位																										

※修了要件に必要な単位数は選択したコースにより、若干の違いがあります。
※各科目の単位は、発展課題実習I・II（各3単位）を除き、1科目2単位。

※研究科共通科目の選択必修における余剰分を自由選択科目の単位数として計算します。

担当教員による授業紹介

①カリキュラム・マネジメントの理論と実践

学習指導要領の理念を実現するための鍵とされる「カリキュラム・マネジメント」の意義と役割、基本的な考え方、具体的な方法について体系的に学びます。子どもたちの教育的課題を明らかにし、ビジョンを共有し、戦略的かつ創造的にカリキュラム開発を進めるにはどうしたらよいのか、動的なマネジメントサイクルに協働的に取り組む組織をどうやってつくるのか、理論と事例から学び、勤務校・実習校の実践を省察し、議論を深めましょう。

②子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践

この授業は、教育現場で課題とされている、貧困や虐待の被害に苦しむ子どもの援助を考えます。「チーム学校」の時代ですから、校内の様々な専門家、校外の関係機関との連携が大事です。同時に、大阪には、多様な子どもを受け入れてきた深い実践があります。愛着、発達などの『心理学』、学校経営・学級経営などの『教育学』、貧困や虐待などの『社会福祉学』の知見を参考にしながらも、教員としてどのように多様化する子どもに向き合っていたらよいかを考えます。ぜひ、一緒に議論して、考えてていきましょう。

③学校におけるコーディネーション

生徒指導にも学習指導にも教員研修にもコーディネーターの存在が不可欠です。学校の協力や連携に促進する影響を与えるのがコーディネーターの具体的な働きです。しかし、コーディネーターになった教員からは、何をすればよいのかがわからない、ということを聞くことが少なくありません。

この授業では、学校内にある組織的資源や人的資源を調整し、つなぐということを、具体的な事例を通して考えます。授業を通して学ぶ情報収集の仕方、方針の立て方、連絡や調整の仕方などは、学校での教育活動にすぐに活かせます。

学校の資源をコーディネートすることの意義と具体的な方法について改めて考えてみませんか。

④いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ

「いじめ」の認知件数・「不登校」児童生徒の数が増え続け、「問題行動」の内容が変化していると言われる昨今、学校園の先生方からは「いったい何が起っている、どのように理解すればよいのだろうか」「援助したいがどのようにすればよいのかわからない」という声を多く聞きます。

この授業では、いじめについては加害側と被害側に加えて、観衆・傍観者も含む集団問題であると捉え、不登校や問題行動については学習面、対人関係、愛着形成などの様々な困難や課題から理解し、それらに悩む子どもへの援助について考えます。

今までの経験を振り返り、現在や未来においてどのようにその援助ニーズに応えていくかについて、一緒に考えてみませんか。

学びを構成する3つの要素

自らが設定した課題の解決に向け、大学院の授業における理論的な学びと、2年間を通じて実施する学校実習における実践的な学びの往還・融合を繰り返し、実践課題研究に取り組むことで、深い教職性と実践的指導力を高めていくよう、カリキュラムを構成しています。

授業

- ・研究科共通科目等に、研究者教員と実務家教員による**チーム・ティーチング**を導入しています。
- ・刻々と変化する教育現場からのニーズに対応するため、地元の教育委員会と連携し、教育現場の声をカリキュラムに反映しています。



学校実習

- ・原則として所属校園で実施します。
- ・所属校園が抱える教育課題の解決を目指して、2年間で300時間を超える実習を行います。
- ・8月と2月の年2回、コースRMを開催しています。学校実習を振り返り、ポスター発表や口頭発表によりコース内外の院生や教員との相互交流を図り、それぞれの成果や課題を共有します。



理論と実践の往還・融合

実践課題研究

連合教職大学院では、入学当初から院生自らが明確な意志と達成目標を持ってテーマを設定し、時間をかけて課題解決に向けた実践的探究を進めます。大学院の授業で学んだ手法を取り入れた教育実践を研究として行います。2年間の学校実習を通じての実践課題研究の取り組みは、得られた知見を教育現場に還元することを意識しながら、**実践課題研究報告書**としてまとめていきます。

<これまでの実践課題研究のテーマ例>

- ・組織的な校内研修体制づくりの実践的研究
—学び合い、高め合う教員集団づくりに向けて—
- ・主幹教諭の職責から見た「連結ピン」機能と学校改善の関係性の考察
- ・幼少連携の充実に資するシステム・ツールの開発
- ・学級担任支援における特別支援教育コーディネーターの新たな役割

入学を検討中の方へ

様々な学びの形態

連合教職大学院では、現職教員の方でも学びを深められるよう、様々な制度を用意しておりますので、ご自身の状況に合わせてご活用ください。

入学後2年で修了することが難しい方へ…

長期履修学生制度

標準修業年限（2年）で修了することが困難な方を対象に、修業年限を2年から3年に延長することにより、計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料の負担を軽減できます。

入学前にどんな授業をしているか知りたい方へ…

授業公開（授業公開強化WEEK）

連合教職大学院では、1年間を通じて授業を公開しています。また、授業終了後に教員や院生、事務職員が見学者の質問に答える場を設けた、授業公開強化WEEKも実施しています。

時間割・申込方法等については、連合教職大学院ホームページをご覧ください。

入学前にいくつかの授業を履修してみたい方へ…

科目等履修生制度

正規の院生の他に、大学院の授業を受講して単位を取得する制度です。取得単位数が少ない分、正規入学に比べて、入学料・授業料が安く済みます。

取得した単位は、正規生として入学した際に、既修得単位として認定されます。

入学前に特定の資質・能力を強化したい方へ…

履修証明プログラム

科目等履修生制度を利用し、連合教職大学院の授業科目で編成された履修証明プログラムを受講することにより、自身の資質・能力を強化することができます。修了時には、学校教育法の規定に基づく履修証明書が交付されます。

連合教職大学院での修学にかかる費用

これらは令和2年度入学者の金額であり、今後、金額が改訂される場合があります。

検定料：30,000円 入学料：282,000円 入学時諸費用：50,000円

授業料（年額）：535,800円（長期履修学生制度適用者は357,200円）

※これらとは別に、授業での教材費等が必要になります。

授業料免除等の経済支援

・教育委員会からの推薦による授業料免除制度（公立学校現職教員対象）

本学と現職教員受入れに関する協定を締結している教育委員会等の推薦により、入学された方は、授業料の全額又は半額が免除されます。

・推薦によらない現職教員に対する授業料免除制度（公立学校現職教員対象）

教育委員会等からの推薦によらず天王寺キャンパス開講のいづれかのコースに入学する公立学校現職教員等については、本人の申請に基づき選考の上、入学年度に限り授業料の半額を免除します。

・厚生労働省指定の専門実践教育訓練給付金（国立・私立学校現職教員対象）

スクールリーダーシップコースに入学する国立・私立現職教員のうち、支給対象者は所定の手続きを行って、専門実践教育訓練給付金（入学金+授業料の半額程度）の支給を受けることができます。ご自分が支給対象であるかの確認等につきましては、各自でハローワークへお問い合わせください。

※その他、大阪教育大学における授業料免除（一般選考・大学院における特別授業料免除）等があります。

天王寺キャンパスへのアクセス



連合教職大学院HP

本リーフレットには書ききれない情報がたくさんありますので、ぜひ連合教職大学院HPをご覧ください。



【担当・お問い合わせ】

大阪教育大学天王寺地区総務課大学院係

TEL:06-6775-6634

MAIL:kyoshoku@cc.osaka-kyoiku.ac.jp